

牧師と神主の娘と

大内 正／節子

大内正さん（富山福音キリスト教会）は、富山市で牧師となって26年。夫人の節子さんと出会ったのは、新潟県高田市（現上越市）の高田聖書教会の青年会。2人とも牧師家庭の出身かと思いきや、なんと双方ともキリスト教とは無縁のご出身。節子夫人は、先祖代々神主の家庭の長女に生まれ、稚児さんとして幼児期から神事に欠かせない役割を果たしていた。富山市のご自宅で、お2人の出会いから現在までを振り返っていただいた。

教会の青年会で

正 私は、高校生の時に友だちに誘われて、宣教師のバイブルクラスへ行きました。その後、礼拝にも出るようになり、3ヶ月くらいして信仰を持ちました。

節子 私が最初にキリスト教にふれたのは、高校3年生の時に聞いたラジオ放送です。「心のともしび」というカトリックの番組でした。

それまでは教会も知らず、聖書も読んだことはありません。どうやって聖書を買ったら

いいのかも分からないほどの田舎でした。「大草原の小さな家」が大好きで、インガルス一家のような温かい家庭に憧れました。教会に行ってみたいという憧れもありました。

神社で祭礼があると、お参りにいらした方々に、巫女さんが扇と鈴を持って祝福を授けます。「稚児舞」と言って、私は4歳ぐらいから母に仕込まれて高校生時代まで踊っていました。お札を作ったりもしました。

教会に行ったのは大学1年生の時で、「英会話と聖書研究会」というところに最初に行き、聖書を読み始めました。その後、寮にクリスチャンがいることが分かり、彼女に誘われて高田聖書教会に行きました。宣教師と大学の教授の1人も同じ教会でした。

―教会に行くことについて、ご家族からの反対は。

節子 なかったですね。洗礼を受ける時も、父は「広い社会勉強のために、いいだろう」と言いました。いとこがカトリックでしたので、いいものだと思ってくれたようです。

正 よくお分かりにならなかったらしいのですが、確かに強い反対はなかったんです。

―互いを結婚相手として意識されるようになったのは、いつですか。

節子 大学1年の5月に教会に行き始め、6

月には信仰を持ちました。その頃から、「この人と結婚するかもしれない」という、俗に言う「ビビッと来る」みたいな感じがありました。

祈り会に出たり、奉仕をする中で、「この人と結婚するのかな」「したいなあ」という気持ちがありました。誰にも話さず、1人で祈っていました。

正 私は全く意識していませんでした。私が2つ年上で、仕事は旧農林省の北陸農業試験場で公務員として働いていました。その後、埼玉に転勤になりました。

節子 私は大学を終えて、就職で新潟に行きました。同じ教会にいたのは3年間です。

牧師の助け

―さあ、それから2人の間はどう発展していったのでしょうか。

節子 25歳の時、新潟の出席教会の牧師先生に「結婚のために祈っている人はいますか」と聞かれ、「はい、います」と答えました。すると、「祈って待っているだけじゃダメだよ、具体的に話を進めない」と言われ、「お願いします」とお答えし、先生が主人に打診してくださいました。主人の神学校3年目の春でした。でも彼は断ったそうです。

（以下略）